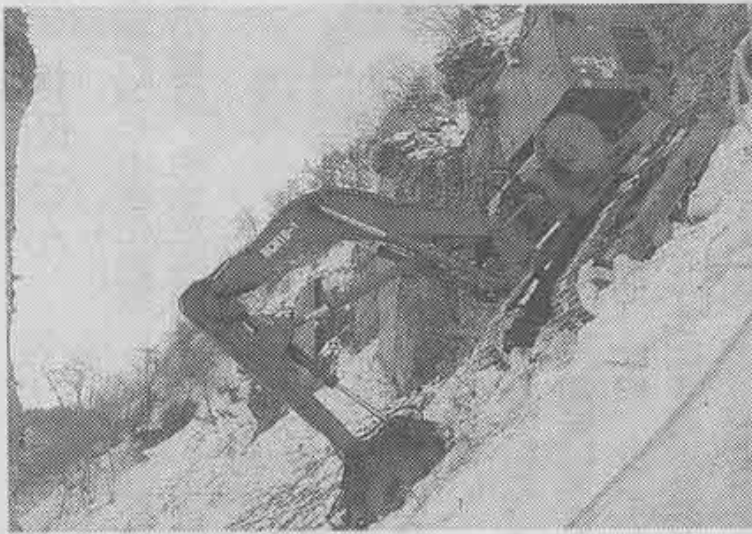


高所法面作業で威力発揮



急斜面で活躍するRCM

玉川組（本社・恵庭、玉川豊社長）は、2月下旬に着手した恵庭岳公園線災害防除法面工事で、日本に4台しかないというラジコン操作のロッククライミンググマシーン（RCM）を導入し、高所法面での岩盤掘削作業を進めている。ワイヤロープで支えた無人のバックホーをラジコンで遠隔操作。難工事の安全かつ効率的な施工に威力を発揮している。

玉川組がラジコン操作のRCM導入

現場は高さ40メートル、斜度90度の切り立った法面。4本の深い亀裂が入り、岩盤が瓦状に風化しており、搭乗運転では転落や崩壊など災害の恐れがある。そこで、安全性や作業スピードを考慮し、ラジコン式のRCMを初めて採用した。工事ではRCMを開発した大昌建設（本社・千葉県）のオペレーターが、熟練した技術で1日8時間のラジコン操作に当たっている。搭乗運転での操作と違い、力の入れ加減が難しいという。

工事は札幌建設管理部が発注で、請負金額は税込1億2054万円。崩壊の危険を防ぐため、6500トン掘削して斜度72度の安定こう配とする。これまでに1400トンの掘削を終了。工期は8月末までで、RCMは7月上旬まで稼働する予定だ。

同社建設部の伊藤一義（いとう ひとし）工事長は「人力では確かに難しい場所。省力化になっており、作業は順調に進んでいる。無事に完成させたい」と話している。